

訪日ムスリム観光客が日本食を満喫できる社会の実現を目指して ～日本食の情報を届けるWebアプリ「Muslim Friendly Guide」～

**Aiming to realize a society where Muslim tourists can fully enjoy Japanese food
～“Muslim Friendly Guide”, a web app that suggests information about Japanese food～**

グループ名：RIZE

学生氏名：我満希空¹⁾，鶴淵美香¹⁾，永見蓮¹⁾，永廣良江¹⁾，Kwon Donguk¹⁾

指導教員 安田賢憲¹⁾

1) 所属先：創価大学 経営学部 経営学科 安田ゼミ

日本語アブストラクト：私達は、ムスリム観光客が日本食を満喫できる社会の実現を目指し、ハラール認証の日本食店が少ないという課題を解決するためのサービス「Muslim Friendly Guide」を提案する。

キーワード：ムスリム，観光客，日本食，多様性

1. 研究テーマの現状

JMTI (2017) によると、日本へのムスリム観光客(以下ムスリムで統一)の数は2016年には70万人を超え、2020年以降は140万人に達すると見込まれ、ムスリムは増加傾向にある。

ムスリムは宗教上、食事に関して厳格な規律があり、ハラール、ハラム、シュブハといった3つのカテゴリが存在する。ハラールとは主に野菜や魚などの食べられる食品、ハラムとは豚やアルコールといったイスラム法により厳格に禁止された食品、どちらにもなりうる食品がシュブハである。

独自調査(n=68)によると、ムスリムの100%が旅行の目的に日本食が含まれる。一方で、約70%が利用できる店を見つけられず、期待していた日本食の食数を満たせなかったことが分かっている。こうしたムスリムの多くは外食の際、ハラール認証店を探している。

ハラールグルメジャパン(2024)によると、全国でハラール認証店は162軒、その中で日本食店は27軒(独自調査も含めると73軒)しか存在しないことが分かった。ハラール認証の日本食店が少ない理由は2つある。1つ目は、ハラール認証を取得するためには高額な費用がかかることである。日本観光学会(2015)によると、認証は200万円から600万円に要すると言われている。2つ目は、ハラール認証の基準が複数存在することである。一般社団法人

ハラール・ジャパン協会(2024)によると、①原材料、②管理環境・製造ライン、③従業員教育、④管理体制の項目を満たすことが必須であるとされている。

以上のことから、ハラール認証の日本食店が少ないことによってムスリムが日本食店を利用できていないことが分かった。

2. 調査内容

私達は、「ハラール認証の日本食店が少ない中で、どうすれば日本食を満喫できるのか?」というリサーチクエスチョンを立て、2024年4月から計215人のムスリムへ半構造化インタビューを行った。

その結果、旅行中にレストランを検索し、認証店が見つかったときのみレストランで日本食を食べられていることが分かった。一方で、認証店が見つからないときに利用している食事方法は2つある。1つ目は、「トルコ料理店などのイスラム圏のレストランを利用する場合」である。2つ目は、「コンビニ商品などの原材料から自己判断して食事をする場合」である。後者からムスリムは、「原材料が分かれば、認証店以外の日本食店を利用できるのではないか?」という仮説を立てた。検証のために、まずどのようなニーズがあるのかを原材料の3つの観点を基にムスリムをA～Dの4タイプに分類した。

条件項目	A	B	C	D
料理に豚肉を使用	×	×	×	×
牛や鶏などの肉を使用 (ハラル処理されていない)	×	○	×	○
醤油やみりんなどを使用 (調味料にアルコールが含まれている)	×	×	○	○

図表 1：ムスリムのタイプ分類

A はハラル認証店でしか食事をしない厳格なムスリムで、B、C、D はハラル認証店以外の既存の日本食店でも食事ができるムスリムである。

独自調査 (n=57) によると、B、C、D のようなムスリムは全体の 53% であると分かった。しかし、B、C、D のムスリムは認証店以外の日本食店に行き着くことができていない。ヒアリングから、ムスリムは日本食店のメニューの原材料に関する情報収集が出来ていないことが分かった。

3. 分析

	ムスリムが普段使うアプリ		ハラル対応アプリ	
	SNS (Instagram/TikTok)	Google maps	Halal Gourmet Japan	Halal navi
日本食の掲載数 (観光地(赤色)の割合)	○ 100店舗以上	○ 100店舗以上	×	×
原材料の判断ができるのか	×	×	○ 豚・アルコールなどについて表記あり	×

1* ○：観光地あり100店舗以上/×：観光地あり100店舗未満
2* ○：原材料の判断ができる / ×：原材料の判断ができない

図表 2：既存のツール分析

その原因を特定するために、ムスリム向けツールの分析を行った。その結果、既存のツールで取り扱う店舗はハラル認証店の紹介がメインであり日本食の掲載店舗は少数であることが分かった。また、認証店以外の原材料に関する情報の取り扱いがないことが分かった。そのため、レストランの原材料を検索できるムスリム向けのサービスが必要であると考えた。

4. 施策提案

原因分析を基に、ムスリム個人の条件に合わせた日本食レストランを検索できる Web アプリ「Muslim Friendly Guide」を提案する。想定しているターゲットは、アルコールが含まれる調味料を食べられる C である。この施策ではピクトグラ

ム機能とマップ機能があり、ムスリムは施策を利用することで、メニューごとの原材料を確認して個人の条件と比較し、現在位置の付近にあるレストランを発見することができる。利用手順として、礼拝堂に配置した施策の QR コードを撮ることで施策に接続することができる。

5. 今後の展望

2024 年 12 月までレストランへの掲載交渉、ムスリムへの満足度調査を行い、2025 年 2 月からサービス開発、2025 年 4 月にサービス開始を目指す。

6. 参考文献

- ・一般社団法人ハラル・ジャパン協会 (2024) 「ハラル・ジャパン協会」
(<https://jhba.jp/> (閲覧日：2024 年 9 月 30 日))
- ・NutriWorks (2022) 「【フードダイバーシティ～食の多様性～を理解する】ハラール」
(<https://nutriworks.jp/post/columns/685> (閲覧日：2024 年 9 月 30 日))
- ・ジャパムスリムトラベルインデックス (2017) 「A Mastercard-Crescentrating GMTI Series Report」
(https://www.halalmedia.jp/wp-content/uploads/2017/11/JMTI-2017_JP-1.pdf (閲覧日：2024 年 9 月 30 日))
- ・日本観光学会 (2015) 「ハラール認証およびムスリムフレンドリー認証についての考察」
(https://www.jstage.jst.go.jp/article/nihonkanko/56/0/56_64/_pdf/-char/ja#:~:text= (閲覧日：2024 年 9 月 30 日))
- ・Halal Gourmet Japan (2024) 「ハラールグルメジャパン」(<https://www.halalgourmet.jp/j> (閲覧日：2024 年 9 月 30 日))
- ・RIZE 独自調査 (N=215) (実施期間：2024 年 5 月 25 日～9 月 14 日)
- ・一般社団法人ジャパン・ハラル協会 佐久間様 (ヒアリング日：2024 年 9 月 24 日)